

令和 5 年度

厚沢部町教育委員会外部評価委員会
点 検 ・ 評 価 報 告
(令和 4 年度対象)

令和 5 年 1 1 月

厚 沢 部 町 教 育 委 員 会

1 点検・評価の目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされました。

このことから厚沢部町教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆さまへの説明責任を果たすため、教育委員会の事務・事業について点検・評価を行おうとするものです。

2 外部評価

点検・評価について客観性を確保するため、教育委員会では町内の有識者5名で構成される「厚沢部町教育委員会外部評価委員会」を設置し、委員の皆様から広く意見を聴取しようとするものです。

【厚沢部町外部評価委員会委員名簿】

職 名	氏 名
委 員 長	笹 谷 勝 博
副 委 員 長	岩 田 淳 一
委 員	谷 口 匡佐子
委 員	高 木 智 歩
委 員	倉 谷 弘

3 点検・評価の項目

点検・評価の具体的な項目や指標について、国の基準はなく、各教育委員会が実情を踏まえて決定し、議会や地域住民の指摘を受けて改善していくこととなります。

本町では「第8次厚沢部町教育推進中期計画」の事業区分を基本に、令和4年度の主な事務・事業について、点検・評価を行おうとするものです。

今回の点検・評価の結果を次年度以降の事務の改善等に活用し、教育施策の推進に努めてまいりますので、宜しくお願いします。

厚沢部町教育委員会外部評価委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、厚沢部町教育委員会外部評価委員会の設置、組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(設置及び目的)

第2条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第27条第1項及び第2項に基づく厚沢部町教育委員会(以下「教育委員会」という。)の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価(以下「評価」という。)に関し、効率的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たし、その客観性の確保を図るための意見を求めるため、厚沢部町教育委員会外部評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第3条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が行った評価等の結果について、専門的視点から意見を述べること。
- (2) 教育委員会が行う評価等の手法並びに事務・事業の改善又は充実策について意見を述べること。
- (3) 前2号に掲げる事項について取りまとめた結果を教育委員会に報告すること。

(組織)

第4条 委員会は、委員5人以内で組織する。

- 2 委員は、教育に識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
- 3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する者をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を代表し会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し会議の議長となる。ただし、最初に行われる会議は、教育委員会教育長が招集する。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させてその説明又は意見を聞くことができる。
- 5 委員会の会議は、公開できるものとする。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会事務局において行う。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この訓令は、平成22年4月1日から施行する。

(1)教育課程、学習指導、総合的な学習

主管係	学校教育係	記入者		三 上 裕 介
事務事業名	学力向上対策に係る支援事業	中期計画上の位置づけ		教育課程・学習指導 ・総合的な学習
1 0 款 1 項 2 目	事務局費	事業費	R 2 実績	3, 2 0 8 千円
			R 3 実績	1, 6 2 8 千円
			R 4 実績	3, 0 3 8 千円
1 0 款 2 項 2 目	教育振興費（小学校）	事業費	R 2 実績	1, 2 9 4 千円
			R 3 実績	1, 8 8 2 千円
			R 4 実績	2, 2 3 5 千円
1 0 款 3 項 2 目	教育振興費（中学校）	事業費	R 2 実績	5 3 1 千円
			R 3 実績	6 6 1 千円
			R 4 実績	9 0 9 千円
事業の目的 （求める成果）	・児童生徒の学習権を保障するため、町立小中学校に対して教育課程の編成や学力向上対策についての指導、助言を行う。			
事業対象と手段 （誰に何を）	○指導方法工夫改善加配：1 名配置（算数少人数授業担当・道費・厚沢部小学校） ○小学校体育専科教育加配：1名配置（道費・厚沢部小学校・全小学校巡回） ○学校力向上に関する総合実践事業加配：2 名配置（道費・厚沢部小学校・理科専科全小学校巡回、事務） ○総合的な学習推進協議会補助金交付 ○デジタル教材有効利用のための大型テレビ導入			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	習熟度別による指導の充実が図られている。ICT機器の導入により、指導の充実が図られている。
成果 (意図した成果があがったか)	A	習熟度別による指導の充実により実践的でわかりやすい授業づくりの向上を図ることができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	学力向上対策用の備品整備は今後も計画的に行っていく必要があるため、予算の削減はしない。
総合評価	A	個別最適な指導を可能にするため、習熟度別指導及びチーム・ティーチングを推進し、子どものつまづきに対応できる支援体制の強化を図る。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(2)健康・安全

主管係	学校教育係	記入者	太 田 聡 子
事務事業名	学校保健の充実事業 (児童生徒健康診断事業) (町学校保健会助成事業) (教職員健康診断事業)	中期計画上の位置づけ	健康・安全教育の充実
10款1項2目	事務局費	事業費	R 2 実績 2, 3 6 6 千円 R 3 実績 2, 3 6 9 千円 R 4 実績 2, 3 7 0 千円
事業の目的 (求める成果)	・心身ともに健康な児童生徒の育成を図る ・教職員の健康保持 ・町学校保健会の推進・充実を図る		
事業対象と手段 (誰に何を)	○全児童生徒の健康診断実施 (内科検診、歯科検診、眼科検診、耳鼻科検診、尿検査) ○心臓検診の実施 (小学校1学年及び中学校1学年対象) ○就学前児童の就学時健康診断の実施 ○教職員の健康診断 (血液検査・心電図検査・胸部X線検査・尿検査：全職員、 40歳以上：胃検査 35歳及び40歳以上：聴力検査、 面接指導：面接指導を必要とする職員) ○町学校保健会補助金交付		

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	学校保健安全法等の定めに基づき実施している。
成果 (意図した成果があがったか)	A	町学校保健会へ補助金を交付し年1回研修会を開催し、理解を深めている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	児童生徒検診及び教職員検診は、学校保健安全法に定められている項目について医療機関と委託契約し行っているため予算の削減はできない。
総合評価	A	検診事業については、教委・学校・医療機関との連携により計画的に実施できており、教職員や児童生徒の安心安全な健康管理が図られている。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(3) その他(就学支援)

主管係	学校教育係	記入者		太 田 聡 子
事務事業名	児童生徒への就学援助の充実事業	中期計画上の位置づけ		教育費等の支援
1 0 款 2 項 2 目	教育振興費（小学校）	事業費	R 2 実績	7 5 2 千円
			R 3 実績	8 3 9 千円
			R 4 実績	7 7 0 千円
1 0 款 3 項 2 目	教育振興費（中学校）	事業費	R 2 実績	6 6 4 千円
			R 3 実績	1, 1 0 9 千円
			R 4 実績	2, 0 7 3 千円
事業の目的 （求める成果）	・経済的に困窮な理由を有する児童生徒の適切な就学を支援する			
事業対象と手段 （誰に何を）	・要保護、準要保護児童生徒への就学支援			
	《対象項目》			
	入学準備金（小4名、中11名）		保護者会費（小21名、中12名）	
	学用品費（小29名、中21名）		クラブ活動費（中17名）	
	校外活動費（小6名、中7名）		生徒会費（中20名）	
	修学旅行費（小4名、中5名）			
学校給食費 無償化実施により支給無し（令和2年度より）				

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	準要保護の選考基準は、生活保護世帯基準の1.2倍までとしており、経済的に困窮している家庭に支援をすることで児童生徒が安心して就学することができる。
成果 (意図した成果があがったか)	A	援助することにより安心して就学することができている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	毎年対象者を選定するため、削減は難しい。
総合評価	A	援助することにより安心して就学することができていることから今後も継続する必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和４年度事務事業評価シート（学校教育係）

主管係	学校教育係	記入者	太田 聡子
事務事業名	奨学資金貸付事業	中期計画上の位置づけ	教育費等の支援
１０款４項１目	奨学金	事業費	R 2 実績
			１，７６４千円
			R 3 実績
			２，４８４千円
			R 4 実績
			２，１３６千円
事業の目的 (求める成果)	・大学、専修学校及び高等学校に在学する優秀な生徒で、経済的理由により修学困難な者に対し、学資金を貸し付けし有用な人材を育成する。		
事業対象と手段 (誰に何を)	・厚沢部町奨学資金貸付条例による奨学資金の貸与 高等学校 月額 14,000円 : 2名(新規0名、継続2名) 短大、専修学校 月額 30,000円 : 2名(新規0名、継続2名) 大学 月額 30,000円 : 3名(新規0名、継続3名)		

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	有用な人材育成を図るため、継続実施が必要である。給付型の奨学金については、近隣町村の動向を踏まえ今後検討を要する。
成果 (意図した成果があがったか)	A	経済的理由により修学困難な優秀な生徒に対し、奨学資金を貸与することで有用な人材育成が期待できる。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	貸付金額の月額は高額ではないため、削減することは難しい。
総合評価	A	奨学資金を貸与することによって経済的支援が図られており、今後も現状のまま継続する必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(4)教育課程

主管係	学校教育係	記入者	三 上 裕 介
事務事業名	国際理解教育の推進事業 (外国語青年招致事業)	中期計画上の位置づけ	国際理解教育の推進
10款1項2目	事務局費	事業費	R2実績 4,802千円 R3実績 4,867千円 R4実績 4,988千円
事業の目的 (求める成果)	・中学校における英語教育の充実 ・小学校における外国語活動の充実及び学校教育における国際理解の充実 ・異文化に触れる機会を拡大し、国際社会に対応できる子どもの育成		
事業対象と手段 (誰に何を)	①各小・中学校の訪問による学校教育における英語指導助手の活用（認定こども園含む） 《英語指導助手派遣状況》 厚沢部中学校：68回 厚沢部小学校：36回 鶉小学校：56回 館小学校：62回 (厚沢部小学校は1日、鶉・館小学校は半日) 認定こども園：11回		

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	英語指導助手を学校教育現場で活用することで、外国語活動の推進が図られている。
成果 (意図した成果があがったか)	A	計画通りに授業を行うことができている。自己体験を交えながら授業を行っているため児童生徒が楽しんでいるとの意見をいただいている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	英語指導助手の報酬額については、JETプログラム（国が自治体国際化協会と協力して実施）で決められていることからコスト削減は難しい。より学年にあった授業内容となるよう各学校と調整を図っていく。
総合評価	A	ゲーム等で英語に親しみ異文化に触れることで、国際社会に対応できる子どもの育成に努めている。 今後も学習指導要領を基に、学校訪問前に授業内容の打合せを十分行い、児童生徒が英語を通じて国際感覚を養えるよう工夫していく。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(5)へき地・複式教育

主管係	学校教育係	記入者		太 田 聡 子
事務事業名	へき地・複式教育の推進事業 (へき地複式教育研究連盟助成事業)	中期計画上の位置づけ		へき地・複式教育の充実
1 0 款 1 項 2 目	事務局費	事業費	R 2 実績	2 1 5 千円
			R 3 実績	6 2 千円
			R 4 実績	4 3 千円
事業の目的 (求める成果)	・ 地域や少人数指導の特性を生かしたへき地・複式教育の充実 ・ 町内 2 校合同の見学学習・球技などの集合学習や交流学习を通して体験を深める ・ 児童の経験や視野を広げ、社会性を育てる			
事業対象と手段 (誰に何を)	・ 対象校 鵜小学校、館小学校 ①へき地複式教育研究連盟補助金交付 ・ 教職員研修旅費、交流学习等事前会議及び打合せ旅費			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	交流学习などで他校の児童と集団で活動を行うことは重要である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	他校との交流により、社会性を高める効果があった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	宿泊研修や社会科見学等については、複式校で合同で実施する方が旅費等のコスト削減になる。一部はリモート化されている。
総合評価	A	集合学習を通して集団での活動体験や他校との交流学习によって社会性を高める効果があり、今後も継続実施していく必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(6)教育課程

主管係	学校教育係	記入者	三 上 裕 介
事務事業名	社会科副読本改訂事業	中期計画上の位置づけ	教育課程・学習指導
10款1項2目	事務局費	R2実績	—
		R3実績	—
		R4実績	—
事業の目的 (求める成果)	・本町の社会科副読本は昭和54年度に出版し、平成元年度に改訂、平成10年度に改訂2版、平成23年度に改訂3版を出版しているが、前回改訂から約10年経過し、町も大きく変遷している。町内小学校では「ふるさとに心の向く教育」の実践推進に欠くことの出来ない「書」として活用されていることから改訂4版を出版した。		
事業対象と手段 (誰に何を)	・厚沢部町改訂4版・社会科副読本編集委員会を設置 ・厚沢部町改訂4版 「わたしたちの町 あっさぶ」を出版		

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	指導要領では身近な地域（産業・生活・地理的環境・災害防止と安全・交通・公共施設など）について3・4年生で学ぶことになっている。しかし、教科書には遠くの地域の例が上げられ、児童の身近な地域を学ぶことができない。厚沢部町として町内各校の児童が共通に学ぶ副読本が必要である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	改訂4版でもワークシートを中心に教室で使われやすい形式を追求してきた。編集委員の努力により、児童たちが「身近な地域」を調べ、工夫してワークシートを埋めていくことが可能になった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	副読本を指導要領対応期間の10年分作成するなどしてコスト削減を図った。
総合評価	A	令和2年度に改訂3版を基に編集をし改訂4版を発行した。編集委員の現場からの声や近隣の町の発行形態などを参考に審議の上、編集した。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(7)現職教育

主管係	学校教育係	記入者		太 田 聡 子
事務事業名	教職員の資質向上及び学校経営の円滑な推進事業 (町教育研究会助成事業) (定例校長会・教頭会) (教職員各種事業連絡旅費) (各校コミュニティスクール運営事業) (校務支援システムの運用)	中期計画上の位置づけ		学校経営の推進
1 0 款 1 項 2 目	事務局費	事業費	R 2 実績	1, 0 6 1 千円
			R 3 実績	9 5 9 千円
			R 4 実績	1, 6 6 7 千円
1 0 款 2 項 1 目	小学校管理費 (校務支援システム運用分)	事業費	R 2 実績	4 2 3 千円
			R 3 実績	4 2 3 千円
			R 4 実績	4 2 3 千円
1 0 款 3 項 1 目	中学校管理費 (校務支援システム運用分)	事業費	R 2 実績	4 2 3 千円
			R 3 実績	4 2 3 千円
			R 4 実績	4 2 3 千円
事業の目的 (求める成果)	・具体的な実践・指導を活性化する組織的な実践の展開と校内研修の充実 ・ふるさとの誇りや確かな成長を刻み、信頼獲得に努める学校経営の充実			
事業対象と手段 (誰に何を)	○毎月定例校長会及び教頭会を開催し、学校経営について指導、助言を行っている ○教職員の各種会議・研修の参加に必要な旅費を補助する ○コミュニティスクールの開催への補助を通じて保護者や地域の意見を学校経営へ反映させる ○町教育研究会補助金交付 ○校務支援システムの導入-厚沢部小学校及び厚沢部中学校（中学校は令和元年度より導入）			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	定例校長会議をはじめとする各種会議及び学校訪問により、学校経営方針の確認や実態把握に努めている。
成果 (意図した成果があがったか)	A	コミュニティスクールの開催への補助を通じて保護者や地域の意見を学校経営へ活用することができた。 町教育研究会において、管内での各種研究会及び交流会へ参加することにより教育活動の実践交流が図られた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	町教育研究会への補助は教職員の資質向上には欠かせないため、削減は難しい。
総合評価	A	各校の円滑な学校経営に向け、定例校長会・教頭会及び生涯学習推進アドバイザーによる学校訪問での指導・助言が機能している。 校務支援システムの導入により教職員の働き方改革にも寄与できている。 校内研修や各種研修参加等において教職員の研修に対する姿勢は概ね良好である。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(8)特別支援教育

主管係	学校教育係	記入者	太田 聡子
事務事業名	特別支援教育の推進事業 (特別支援教育支援員配置事業) (厚沢部町教育支援委員会) (特別支援教育連絡協議会)	中期計画上の位置づけ	特別支援教育
10款1項2目	事務局費	事業費	R2実績 309千円 R3実績 217千円 R4実績 323千円
事業の目的 (求める成果)	○困難を抱える子どもや障害の状況に応じた特別支援教育の充実 ○特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と指導力の向上 ○関係機関との連携・協力による特別支援教育の充実と改善		
事業対象と手段 (誰に何を)	○特別支援教育支援員を厚沢部小学校5名、鶉小学校2名、館小学校1名、厚沢部中学校1名配置 ○就学前児童において、知能検査を実施し、保護者及び入学校と教育委員会で協議 ○町特別支援教育研究会補助金交付 ○特別支援教育コーディネーターの指名（各学校） ○特別支援教育連絡協議会委員の委嘱と協議会の開催		

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	就学前児童の知能検査を実施することで、支援が必要な児童を把握し、学校及び保護者との連携が図られている。 また、学年が上がり支援が必要になっていく児童生徒を把握するとともに、配置要望校へは支援員を配置することで児童の教育環境が整備されている。
成果 (意図した成果があがったか)	A	特別支援教育連絡協議会及び関係者による打ち合わせにより、実態把握が図られた。支援員の配置により、学習サポート体制が維持できた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	近年、特別な支援を必要とする児童生徒が増加していることにより、今後は支援員の増員が予想されるため、コスト削減は難しい。
総合評価	A	要望があった学校へ支援員の配置を行い、児童が安心して学べる環境が維持されている。 また、専門的分野から指導助言を受ける機会を各学校に提供するため、今後も特別支援教育連絡協議会の開催を継続する必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(9) その他(教育環境の整備充実)

主管係	学校教育係	記入者		三 上 裕 介
事務事業名	学校教育環境整備事業	中期計画上の位置づけ		学校教育環境の整備充実
1 0 款 2 項 1 目	学校管理費(小学校)	事業費	R 2 実績	1 6 , 1 5 2 千円
			R 3 実績	2 2 , 6 6 9 千円
			R 4 実績	1 1 , 3 9 5 千円
1 0 款 3 項 1 目	学校管理費(中学校)	事業費	R 2 実績	9 , 7 4 3 千円
			R 3 実績	8 , 1 1 0 千円
			R 4 実績	1 , 2 2 6 千円
事業の目的 (求める成果)	・老朽化の状況に応じて計画的に改築・改修を進め、快適・安全な学校環境を整備する			
事業対象と手段 (誰に何を)	①前年度に学校へ修繕の要望取りまとめを行い、次年度に計画的に実施する			
	②学校施設の根幹に関することについては、必要に応じて事務局より改築・改修計画を実施する			
	③突発的に発生した故障についてもできるだけ対応する			
	④主な工事			
	厚沢部小学校トイレ洋式化工事 4 , 8 5 6 千円			
	厚沢部小学校体育館非常口改修工事 1 , 0 4 5 千円			
	鵜小学校玄関ホール床及び外壁補修工事 1 6 5 千円			
鵜小学校倉庫改修工事 6 2 2 千円				
館小学校街路灯交換工事 5 1 7 千円				
館小学校屋根修繕工事 1 , 8 8 1 千円				

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	老朽施設が多いことから計画的に改築・改修を進める必要がある。
成果 (意図した成果があがったか)	A	改修（故障前の状況に復旧）については、ほぼ達成されている。 また、突発的に発生した故障についても対応できている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	老朽化が進んでいるため、修繕費の削減は難しいが、改修内容をより検討工夫し、効率的かつ迅速に（改築・改修等）を継続対応する必要がある。
総合評価	A	事業費を把握するために、前年度の要望取りまとめは継続して実施する。また、安全な学校生活を確保できるよう老朽施設の改修等について迅速かつ計画的に行っている。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(10) その他(教職員住環境の整備充実)

主管係	学校教育係	記入者		三 上 裕 介
事務事業名	教職員住環境整備事業	中期計画上の位置づけ		教職員住環境の整備充実
1 0 款 1 項 2 目	事務局費	事業費	R 2 実績	1, 5 8 8 千円
			R 3 実績	1, 7 0 0 千円
			R 4 実績	8 7 5 千円
事業の目的 (求める成果)	・老朽化した住宅の改築・改修や排水設備等を整備し、教職員の快適・安全な住環境を整備する			
事業対象と手段 (誰に何を)	①前年度に入居者へ修繕の要望取りまとめを行い、次年度に計画的に実施する ②住宅施設の根幹に関することについては、必要に応じて事務局より改築・改修計画を実施する ③突発的に発生した故障についてもできるだけ対応する ④主な修繕内容 ボイラー取替、雨漏修繕等			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	老朽住宅が多いことから計画的に改築・改修を進める必要がある。また、学校から離れた位置にある教職員住宅であって老朽化が著しいものは入居者の退出後に取り壊しを検討する必要がある。
成果 (意図した成果があがったか)	A	改修（故障前の状況に復旧）については、ほぼ達成されている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	限られた予算での対応となるため、事業費削減は難しいが、改築・改修内容をより検討工夫し、効率的かつ迅速に改築・改修できるように継続対応していく。
総合評価	A	事業費を把握するために、前年度の要望取りまとめは継続して実施する。全体的に建物の老朽化が進んでいることから改修の緊急性・必要性を判断して実施する必要がある。入居者のうち一般市民の入居および管理方法については、検討が必要。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評価委員会意見
B	教職員が住みやすい環境に改善を継続する

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

(1)青少年教育

主管係	社会教育係	記入者	富 塚 龍
事務事業名	第21回厚沢部町新春子どもかるた大会開催事業	中期計画上の位置づけ	多様な体験活動や交流 学習の推進と充実
10款5項1目	社会教育総務費	事業費	R2実績 0千円 R3実績 0千円 R4実績 0千円
事業の目的 (求める成果)	・日本古来の和歌を理解し、下の句かるたの保存と伝統を守るための体験機会の提供 ・地域における親睦と町内の交流 ・青少年の健全育成と非行防止、校外活動の充実		
事業対象と手段 (誰に何を)	【第21回厚沢部町新春子どもかるた大会】 →参加希望者が少数のため中止 期 日：令和5年1月8日（日） 会 場：総合体育館 対 象：町内小中学校児童生徒 内 容：下の句かるた大会（ジュニア、小学生、中学生の部） 【第42回檜山子連こどもかるた大会】 →出場希望なし 期 日：令和5年1月15日（日） 会 場：今金町 参加者：なし 内 容：檜山地域子ども会育成連絡協議会主催 管内子ども会単位による下の句かるた大会		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	保護者や地域住民の方に、読み手や審判を依頼し、協働で開催している大会であるため、運営方法は妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	—	—
効率性 (コスト削減の余地があるか)	—	—
総合評価	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が難しく3年間実施できていない。この間にかかるたが出来る児童が減少しているため大会ではなく「かるたが出来る児童」が増加するような事業内容に見直しする必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
C	大会形式の事業内容を見直し、新たな事業を企画すべき。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	少年の主張厚沢部町予選大会開催事業	中期計画上の位置づけ		多様な体験活動や交流 学習の推進と充実
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 2 実績	0 千円
			R 3 実績	2 4 千円
			R 4 実績	2 4 千円
事業の目的 (求める成果)	未来に向けての夢、社会に対する希望などを発信させることにより青少年の健全育成及び非 行防止に対する理解をより深める。			
事業対象と手段 (誰に何を)	期日：令和4年6月6日（月） 会場：町民交流センター 参加数：12名 内容：中学校代表者による主張発表大会（上位2名を檜山地区大会出場者とする。） 結果：最優秀賞 細畑綾香（3年） 優 秀 賞 沼下歩生（3年） 審査委員特別賞 柴田 湊（3年） 【檜山地区大会】 実施方法：ビデオ審査により実施（出場者及び傍聴者等の招集は行わない） 審査月日：令和4年6月23日（木） 審査場所：今金町 結 果：最優秀賞 細畑綾香 優 良 賞 沼下歩生 備 考：檜山振興局主催事業 【北海道大会】 実施方法：ビデオ審査により実施（出場者及び傍聴者等の招集は行わない） 審査月日：令和4年8月23日（火） 審査場所：札幌市 結 果：優秀賞（北海道PTA連合会会長賞） 細畑綾香 備 考：公益財団法人北海道青少年育成協会			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	北海道大会、檜山大会につながる大会であり、北海道と連携を 図る上でも教育委員会が運営すべきである。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	自分の主張を論理的に考察し、表現するに当たり、生徒が努力 し、結果を発表する機会を提供することができ、青少年の健全 育成に寄与している。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	表彰経費等の報償費で、必要最低限で運営しており、効率性は 高い。
総合評価	A	来賓や一般傍聴者の入場を制限するなど、新型コロナウイルス 感染症拡大防止対策を講じて実施した。比較的スムーズに実施 することができた。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	ジュニアリーダーコース 派遣事業	中期計画上の位置づけ		多様な体験活動や交流 学習の推進と充実
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 2 実績	0 千円
			R 3 実績	0 千円
			R 4 実績	0 千円
事業の目的 (求める成果)	檜山管内の中高校生を対象に宿泊研修を行い、社会活動参画への実践や広域的な青少年活動のリーダーを養成する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	今年度について「檜山管内ジュニアリーダー養成事業「ひやまミライ学」として実施。 主 催：北海道教育庁檜山教育局 目 的：地域資源を活用した体験的な学習や「SDG s」の推進につながる地域課題の解決に向けた実践的な学習機会を通じて、市町村の地域リーダー養成に寄与する。 期 間：令和4年10月8日（土） 対 象：中学生（オンラインにて実施） 経 費：主催者が負担 参加者：参加希望なし ※令和5年2月20日に檜山教育局社会教育指導班が厚沢部中学校に出向き、生徒会を対象にリーダー育成に寄与する交流を行った。			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	教育委員会が派遣取りまとめを行うことが妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	—	コロナ禍のためオンラインでの開催としたが、参加希望者はいなかった。参加者にとっては参加しづらい方法だったことが予想される。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	主催者を負担するので効率性は高い。
総合評価	A	SDGs につながる地域課題の解決に向けた実践的な学習をする事業であり、内容が充実していることから今後も派遣を継続すべきである。 また、オンラインによる開催の場合は機材の取扱いに慣れない方が参加できるよう会場を用意するなどの検討が必要。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者	石 井 淳 平
事務事業名	地域学校協働本部事業	中期計画上の位置づけ	地域ぐるみの健全育成の推進と充実
10款5項1目	社会教育総務費	事業費	R2実績 3,411千円
			R3実績 0千円
			R4実績 0千円
事業の目的 (求める成果)	地域住民の特技や趣味、伝統技能を把握し、社会教育事業や学校教育活動での活用を通して、生涯学習活動の機会創出、地域の教育力向上、学校教育活動の充実の推進を図る。		
事業対象と手段 (誰に何を)	地域学校協働本部事業 期間：通年 対象：小中学校 内容：学校教育活動に際し、学校とボランティアのコーディネートを担う。 ※館小学校について、令和3年度から文科省の補助金を活用した放課後子ども教室を中止。 厚労省の補助金を活用し、保健福祉課が館小学校学童保育所となかよし子ども教室を実施する。		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	学校教育活動の支援のため、地域ボランティアを学校と繋ぐ役割として行政が実施すべき。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	スキークラブや河川資源保護振興会など地域団体による学習支援や体験活動を実施するなど一定の成果があった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	最低限の費用で実施しているためコスト削減の余地はない。
総合評価	A	これまでの学校支援ボランティアの「支援」から学校運営協議会（CS）の意見を踏まえ、地域と学校が「協働」する体制が必要であるため、CSと一体的になるよう整備することを検討。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和４年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	あっさぶ少年少女体験塾開催事業 (土曜日の教育支援体制等構築事業)	中期計画上の位置づけ		多様な体験活動や交流 学習の推進と充実
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 2 実績	1 2 5 千円
			R 3 実績	1 1 0 千円
			R 4 実績	1 2 8 千円
事業の目的 (求める成果)	事業内容を自然・芸術文化等で、異世代交流・親子の触れあい・人間性豊かな少年少女の育成を図ることをねらいとする。 また、土曜日の教育環境を豊かなものにするため、土曜日に体系的・継続的なプログラムを計画・実施し、教育支援体制の構築を図ることにより、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①親子体験フェスタ in あっさぶ川 期 日：令和4年8月6日（土） 場所：安野呂川赤沼橋付近 対 象：小学生とその家族 参加数：12組25名 講師：厚沢部町河川資源保護振興会会員 内 容：親子川釣り大会、川の生き物観察会、カヌー体験 ②こども芸術家養成講座「陶芸教室」 期 間：第1回 令和4年6月18日（土） 第2回 令和4年7月16日（土） 第3回 令和4年8月27日（土） 第4回 令和4年9月17日（土） 第5回 令和4年10月8日（土） 場 所：旧赤沼寿の家 対 象：小学生4～6年生 講師：厚沢部町陶芸愛好会会員 参加数：14名（延べ54名） ※作品は町民文化祭にて展示 ③茶道体験子ども教室→中止 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、協力団体から中止したい旨の連絡があった。 希望者がいるときは、茶道教室の活動として実施する。			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	講師を文化協会加盟団体等社会教育関係団体へ依頼しているため、連絡調整等を円滑に行うことができた。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	厚沢部町の自然を活かした事業や文化団体の特性を活かした文化活動を体験させることができ、地域住民と中学生の交流を図ることができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	土曜日の教育支援体制等構築事業として補助対象経費の２／３以内で道より助成されるため、効率性は高い。親子体験フェスタのカヌー体験経費について、観光協会が負担したためコストの削減の余地はない。
総合評価	A	地元の社会教育等の団体と協働し、厚沢部町の特性を生かした事業や文化教育を実施でき、また土曜日の充実した活動を提供するため今後も継続すべきである。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

(2)成人教育

主管係	社会教育係	記入者	大 山 かのこ
事務事業名	厚沢部町二十歳を祝う会開催事業	中期計画上の位置づけ	厚沢部の良さや町の課題を学ぶ学習会や体験機会の推進
10款5項1目	社会教育総務費	事業費	R2実績 0千円 R3実績 584千円 R4実績 292千円
事業の目的 (求める成果)	我が郷土を誇れるよう故郷厚沢部町を感じる機会を提供するとともに、主体的に行動する大人としての自覚と、今後の積極的な社会参加を促すことを目的とする。		
事業対象と手段 (誰に何を)	【令和4年度対象者】 期日：令和5年1月5日（木） 場所：町民交流センター 対象：平成14年4月2日～平成15年4月1日生まれ 対象者：39名（うち出席者24名） ※令和3年度：32名 出席者15名 内容：記念式典（対象者入場、主催者挨拶、祝辞、祝電披露、記念品贈呈、二十歳代表宣誓） 動画視聴・記念撮影 ※新型コロナウイルス拡大防止対策として、検温・手洗い・消毒・健康管理チェック票の提出を実施。		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	地元に残る対象者がほとんどいないため、参加者が主体となる実行委員会形式での開催は難しい。人生の節目としての貴重な場であることからこれまでどおり教育委員会主催で継続すべき。
成果 (意図した成果があがったか)	A	今後の抱負などを一人一人収録し上映するなどコロナ禍にあっても出来る限りの企画を取り入れ、二十歳としての自覚と郷土愛の醸成を図ることができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	感染拡大防止対策を講じるため、記念講演及びお神酒通しを中止し、予算を必要としない動画上映の企画・実施やしおりの自主作成による経費削減など工夫しながら内容の充実を図り、効率性の確保に努めた。
総合評価	A	ふるさとで共に過ごした仲間達との再会の場、家族や恩師、地域の方々への感謝の心を育み大人としての自覚と責任を醸成する場として、一生に一度の人生の節目を祝い激励する行事であり、今後も内容の充実を図る。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	生涯学習教養文化講座開設事業	中期計画上の位置づけ		地域づくりの役割と責任を自覚し、意識の高揚を図る地域活動の推進
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 2 実績	0 千円
			R 3 実績	0 千円
			R 4 実績	0 千円
事業の目的 (求める成果)	町民の自発的学習活動の振興と定着化を図るために学習機会を提供するとともに、地域住民の生涯学習の推進と地域教育力の向上を図る。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①A L T の英会話教室 期間：令和 5 年 1 月 1 1 日～1 3 日 1 月 1 1 日(水) 1・2 年生対象 6 名参加 1 月 1 2 日(木) 3・4 年生対象 5 名参加 1 月 1 3 日(木) 5・6 年生対象 5 名参加 場所：図書館視聴覚室 対象：町内小学生 講師：メガナ・ブランドル(町外国語指導助手)			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	英語を楽しく学習する機会を提供することは、児童が英語学習に興味を持つことに繋がり継続して行うべき。
成果 (意図した成果があがったか)	A	ALTの学習方法の工夫により、終始楽しく学習ができ、一定の成果があった
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	ALTを講師にすることにより最小限の経費で実施した。
総合評価	A	国際化が進む現代において、英語の学習機会の提供は必要と考える。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(3)高齢者教育

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	厚沢部町幸齢者学級開設事業	中期計画上の位置づけ		生きがいを見出し、取り組むための学習や体験活動の推進
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 2 実績	0 千円
			R 3 実績	3 6 千円
			R 4 実績	5 1 千円
事業の目的 (求める成果)	生きがいのある生活を築くために必要な教養・技術を習得するとともに、仲間づくりの輪を広げ、心豊かな生活を確立する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	学習会開催〔下記4回の予定〕 【第1回】令和4年7月2日（土） 場所：町民交流センター ※文化講演会と同時開催 内 容：教養講座（講演会） 講師 林家染二 氏（落語家） 題目 笑う門には福来たる～思いつき笑うと元気になる～ 参加者：28名 【第2回】令和4年9月13日（火） 場所：町民交流センター 内 容：趣味講座（鑑賞会） DVD鑑賞（永遠のニシパ） 参加者：24名 【第3回】令和4年10月24日（月） 場所：町民交流センター 内 容：教養講座（文化祭出展に向けたものづくり） 書道作品作成講師 瀧野澤信子 氏（竹泉書道愛好会） 参加者：12名（学級生のほかに書道スタッフとして書道愛好会から4名が参加） 【第4回】令和5年2月21日（火） 場所：町民交流センター ※文化講演会と同時開催 内 容：教養講座（講演会） 講師 渡貫淳子氏（第57次南極地域観測隊 設営・調理） 題目 ～かあちゃん、調理隊員になる～南極ではたらく 参加者：24名			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	高齢者が生涯学習として生きがいをもって暮らすため必要な講座として実施すべきである。
成果 (意図した成果があがったか)	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、当初の計画通り実施することができ、学級生へ学習機会を提供できた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	文化講演会と同時開催や図書館資料（DVD）を利用することにより経費削減を図った。
総合評価	A	高齢者が健康で充実した日々を暮らすために各種講座の開設は必要である。 また、地域団体に事業の協力を依頼することにより地域団体の活動意欲の向上に繋がった。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(4)家庭教育

主管係	社会教育係	記入者	大 山 かのこ
事務事業名	厚沢部町家庭教育学級開設事業	中期計画上の位置づけ	基本的な生活習慣の確立を 目指した学習活動の推進
10款5項1目	社会教育総務費	事業費	R2実績 17千円 R3実績 19千円 R4実績 10千円
事業の目的 (求める成果)	親子や保護者同士の交流に加え、地域住民が交流することにより、地域の居場所づくりを 促進させることを目的とする親子体験型プログラムを実施する。		
事業対象と手段 (誰に何を)	①高齢者サロンとの交流 期 日：令和5年1月15日（日） 場 所：赤沼町ふれあいセンター 対 象 者：町内小中学生及び保護者 参加者数：47名（小学生18名、中学生1名、未就学児3名、保護者14名、 高齢者サロン会員11名） 内 容：親子が保護者や町内の高齢者サロンと異世代交流することにより、互いに教養を 学び地域の居場所づくりを促進するため、高齢者サロン会員からコーディネーターと指導者の 2名を依頼し、昔の遊びや缶バッジ作り、カーリンコンなどを実施し交流を図った。 ②早寝早起き朝ごはん運動の推進 期 日：適時 対象：幼児・小中学生・保護者 内 容：社会教育通信や各種事業等で、生活習慣の確立と朝ごはんの大切さを周知		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	①地域の繋がり大切さ、高齢者から子どもへの文化継承をすすめるため、地域団体と行政が協働し事業を実施することが妥当である。 ②学校・関係機関と連携したPRに努め、規則正しい生活習慣の啓発を図る。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	①アンケート結果から保護者、高齢者ともに地域の繋がり大切さの気づきのきっかけとなった。また、3世代が交流する機会が少ないことから良い刺激となった。 ②すべての学校が啓発・啓蒙活動をおこなっており、運動の定着がされている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	①必要最低限の支出（講師報酬費、消耗品費）であるため、効率性は高い。 ②学校との連携を図り取り組んでおり効率性は高い。
総合評価	A	①事業終了後のアンケートでは「楽しかった」「また実施してほしい」などの声があり、満足度は高い。 開催地区の町内会の協力によるビンゴ大会（景品は町内会が負担）、保護者の会による参加呼びかけによる参加者の増加など、地域との繋がりが図られた。 ②学校や社会教育通信の周知により定着が図られた。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(5)芸術文化

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	厚沢部町文化協会活動費助成事業	中期計画上の位置づけ		芸術文化活動の推進と 充実のための環境整備
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 2 実績	4 3 2 千円
			R 3 実績	4 3 0 千円
			R 4 実績	5 6 3 千円
事業の目的 (求める成果)	町内文化団体の活動費等に助成し、町文化団体の振興を図る。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①文化協会活動費助成 ・加盟団体の16団体（延べ189名）に対する活動費助成 ・各種文化事業開催に係る共催・後援協力			
	②文化団体活動施設管理事業 目 的：平成21年度に解体となった社会教育センター研修棟で活動していた文化協会加盟 「陶芸愛好会」の活動場所を確保し町内文化活動の振興を図る。 期 間：通年 場所：旧赤沼寿の家 対象：陶芸愛好会 内 容：光熱水費（電気料・上下水道料）と修繕料等、施設運営・維持に関する経費を支出 ③第60回町民文化祭開催事業 【文芸作品展】 期 日：令和4年11月2日（水）～3日（木） 場 所：総合体育館 出展数：1,037点[前回(元年度)1,591点] 入場者数：181人[前年度(元年度)470人] 【芸能発表会】事前に芸能発表を収録（希望する団体等）し、文芸作品展会場で上映 ※2団体・1個人が希望 町民文化祭実行委員会主催、町内各地区運営実行委員会主管事業 ※平成30年度から総合体育館1箇所で文芸作品展を開催。			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	芸術文化活動の振興と地域住民交流の促進のため、一定の活動支援をすべき。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	コロナの影響により各団体、通常通りの活動が出来なかったが、文化団体活動施設の維持管理や町民文化祭の開催により各団体の活動や発表の場の提供ができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	各団体活動費への助成及び施設維持管理など、必要最小限の支出のみでコスト削減の余地なし。
総合評価	A	芸術文化活動は仲間づくりの輪を広げ心豊かな生活確立するものとして大切な活動であり、日々の成果発表の機会を提供するため継続的な支援を行うべき。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和４年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	厚沢部町児童生徒芸術鑑賞会開催事業	中期計画上の位置づけ		優れた芸術文化活動の提供
１０款５項１目	社会教育総務費	事業費	R 2 実績	2 8 4 千円
			R 3 実績	3 4 3 千円
			R 4 実績	1 1 9 千円
事業の目的 (求める成果)	町内児童生徒に対し、親しむことの少ない生の芸術鑑賞機会を提供する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	新型コロナウイルス感染症拡大のため 中止 ※公演契約書の締結後の中止を決定したため、キャンセル料が発生 期 日：令和４年１１月１９日（火） １３時２０分～（１回公演８０分程度） 場 所：町民交流センター 対 象：町内小中学生 内 容：公演名 Heaven’ s MusicProject わくわくジャズコンサート			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	学校の要望を把握し北海道巡回小劇場の申込み手続きを行うことから教育委員会が実施することが妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	芸術文化を鑑賞する機会の少ない児童・生徒に身近な会場で鑑賞・体感する機会を提供できた。また、各学校の要望を踏まえた公演を選定しており、学校が意図する学びに繋がっている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	新型コロナウイルス感染症の急拡大を受けて中止としたため、キャンセル料はやむを得ない。
総合評価	A	新型コロナウイルス感染症の急拡大による中止となったが、豊かな感性や個性を育み、芸術文化を理解する本事業は、今後も継続すべきである。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(6)生涯学習推進体制整備

主管係	社会教育係	記入者		石 井 淳 平
事務事業名	厚沢部町社会教育委員活動事業	中期計画上の位置づけ		地域づくりの役割と責任を自覚し、意識の高揚を図る地域活動の推進
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 2 実績	1 9 9 千円
			R 3 実績	2 0 8 千円
			R 4 実績	1 0 5 千円
事業の目的 (求める成果)	社会教育推進に関する諸計画の立案及び調査研究、委員としての活動と生涯学習の効果的推進に関する諸問題について審議する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①社会教育委員の会議の開催 【第1回】令和4年5月25日（水） →書面協議に変更 【第2回】令和4年12月2日（金） 場所：図書館視聴覚室			
	②各種会議・研修会への派遣 ・北海道市町村社会教育委員長等研修会 期日：令和4年7月7日(木)～8日（金） 場所：札幌市 ・北海道社会教育研究大会及び全国社会教育研究大会 期日：令和4年10月14日（金）～8日（金） オンライン開催 ・管内社会教育委員連絡協議会総会【事務局：上ノ国町】 期日：令和4年5月27日（金） →書面協議をして開催 ・管内社会教育委員連絡協議会研修会 期日：第1回目 令和4年 5月27日（金） 場所：上ノ国町 →中止 第2回目 令和4年11月29日（火） →中止			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	事務局が行政であり、妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	当町の社会教育事業の基幹をなしている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	報酬、費用弁償等の必要最低限の支出となっていることから効率性は高い。
総合評価	A	新型コロナウイルスにより多くの研修会が中止となったが、コロナ禍でもできる活動を促進する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和４年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者	石 井 淳 平
事務事業名	青少年問題協議会活動事業	中期計画上の位置づけ	地域ぐるみの健全育成の推進と充実
１０款５項１目	社会教育総務費	事業費	R 2 実績 ３４千円
			R 3 実績 ４０千円
			R 4 実績 ３９千円
事業の目的 (求める成果)	青少年の健全育成に向けた町内各関係機関の情報交流や協議		
事業対象と手段 (誰に何を)	青少年問題協議会の開催 期日：令和５年３月１６日 場所：図書館視聴覚室 対象：委員１１名（出席者 ９名） 内容：道南及び町内の青少年の状況についての情報交換等		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	青少年問題に関する情報の共有化は非常に大切なことであり、関連当事者が会する機会は実施すべきである。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	各方面からの情報提供や町内の現状等の報告を共有することにより、当町の青少年問題に対する意識が高まる。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	必要最低限の支出となっていることから、効率性は高い。
総合評価	A	情報が氾濫し青少年を取り巻く環境が複雑化するなか、関係機関相互連携調整機関は必要。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	厚沢部町教育・文化・スポーツ表彰事業	中期計画上の位置づけ		スポーツ指導者、団体運営担い手の確保・育成
1 0 款 5 項 1 目	社会教育総務費	事業費	R 2 実績	0 千円
			R 3 実績	2 4 千円
			R 4 実績	3 3 千円
事業の目的 (求める成果)	厚沢部町の教育・文化・スポーツに優秀な成績を収めた者又は団体及び功労等が顕著であった者又は団体を顕彰し、もって、町の教育・文化・スポーツの振興を促進する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	内 容：町内に在住する者もしくは町内出身者で、表彰基準を満たし、かつ、その功績が特に顕著な個人又は団体に対して、教育委員会において決定し、表彰を行う。			
	方 法：2月1日から翌年1月31日迄の実績とし、該当する個人等がある時は、所属長が推薦書（所定様式）を2月15日までに提出し、教育委員会で決定後毎年3月に表彰を行う。			
	受賞者：【スポーツ功労賞】			
	厚沢部町ジュニアスイミングクラブ			
	【文化奨励賞】			
	細 畑 綾 香（厚中3）	令和4年度少年の主張北海道大会優秀賞 受賞		
	【スポーツ奨励賞】			
	今 井 蒼 月（厚小6）	全国空手道選手権大会予選兼北海道空手道選手権組手の部：準優勝 形の部：第4位入賞		
	古 谷 三四郎（厚中3）	北海道中学校バドミントン大会（男子シングルス）第8位入賞		
	備考：H24年度より施行			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	教育・文化・スポーツ活動の各分野のより一層の推進を図るためにも、顕著な功績・成績をたたえるべき。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	コロナ禍で思うように活動ができない中、活動の成果が教育委員会から表彰されることにより、各々の活動意欲が高まる。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	必要最低限の経費で実施しており効率性は高い。
総合評価	A	今後更なる成績を目指す良い励みになり、各種活動の推進も図れる。また、広く町民にその成績が周知される。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(7)文化財

主管係	社会教育係	記入者	石 井 淳 平
事務事業名	文化財保護委員会活動事業	中期計画上の位置づけ	文化財の保護と活用
10款5項2目	文化財保護費	事業費	R2実績 57千円
			R3実績 57千円
			R4実績 92千円
事業の目的 (求める成果)	(1)文化財指定に係る意見聴取 (2)文化財保護活用等について審議		
事業対象と手段 (誰に何を)	①第1回文化財保護委員会 期日：令和4年6月29日（水） →書面協議に変更 内容：令和3年度文化財関連事業実績及び令和4年度文化財関連事業計画について ②町内文化財視察 期日：令和4年9月17日（土） 場所：史跡館城跡 ③第2回文化財保護委員会 期日：令和4年12月2日（金） 場所：図書館視聴覚室 内容：令和4年度文化財関連事業中間報告及び令和5年度文化財関連事業計画案について		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	町条例の規定する審議機関であり、現行の運営方法が最善である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	館城跡や鹿子舞等の町内文化財について意見交換を行うとともに、R5年度発掘を予定している館城跡の現地視察を行い、今後の町内文化財の在り方について協議した。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	出席委員の報酬及び費用弁償のみの支出であり、コスト削減の余地なし。
総合評価	A	町の文化財について審議する唯一の専門機関のため、今後も継続を要する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	館城跡管理事業	中期計画上の位置づけ		館城跡の保存整備
1 0 款 5 項 2 目	文化財保護費	事業費	R 2 実績	1 , 6 0 6 千円
			R 3 実績	1 , 3 8 4 千円
			R 4 実績	1 , 3 0 4 千円
事業の目的 (求める成果)	史跡館城跡維持管理			
事業対象と手段 (誰に何を)	①館城跡公園管理業務 期日：6月～9月（丸山・公園6月30日、9月26日、公園7月28日実施） 内容：草刈 ②館城跡（旧民有地）除草業務 期日：6月～9月（6月24日、7月22日、9月26日実施） 内容：館城跡旧民有地の除草 堀部分の刈り残しによる平面標示を実施 ③館城跡公園桜樹木剪定業務 期日：12月～3月 内容：館城跡公園の桜（ソメイヨシノ、ヤマザクラ）150本について、天狗巢病剪定、枯枝剪定、枝切詰めを行った。 ④館城跡公園樹木保存管理業務 →危険木が発生しなかったため未実施 内容：館城公園内の支障木、危険木の伐採 ⑤館城跡公園トイレ清掃管理 期日：5月～11月 内容：館城跡公園トイレの清掃・保守・消耗品補充			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 （行政が実施すべきか・手段は？）	A	史跡内草刈、桜樹木剪定、トイレ清掃管理等の必要な管理業務は実施すべきである。
成果 （意図した成果があがったか）	A	桜樹木剪定については専門業者に委託し、その他草刈やトイレ清掃管理は地域の町内会や観光団体等に依頼し、連携しながら史跡の管理を実施している。
効率性 （コスト削減の余地があるか）	A	必要最低限の管理経費のみの支出であり、コスト削減の余地はない。
総合評価	A	地元町内会や観光団体等の協力を得ながら管理をしており、今後も史跡保護に配慮された管理を実施していくべきである。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和４年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		石 井 淳 平
事務事業名	館城跡保存整備事業	中期計画上の位置づけ		館城跡の保存整備
１０款５項２目	文化財保護費	事業費	R 2実績	４２６千円
			R 3実績	７，６４６千円
			R 4実績	８，４５８千円
事業の目的 (求める成果)	史跡館城跡の保存と活用のための整備事業の実施			
事業対象と手段 (誰に何を)	①史跡館城跡現地説明会 期日：令和４年９月１７日（土） 内容：発掘調査に先立って、史跡館城跡の内容や歴史、R５年度発掘調査の目的を説明するため、文化財保護委員会の町内文化財視察と併せて実施した。 対象：町内住民			
	②館城跡保存整備検討委員会開催 実施日：第１回 令和４年６月２０日～６月２１日 第２回 令和４年１１月８日 第３回 書面協議 第４回 令和５年３月２２日～２３日 内 容：館城跡整備事業にかかる基本計画（平成２７年３月）策定後、AR等の技術の発展と情報端末の普及によりこれらを活用した整備を行うこととした。AR等の導入は基本計画に盛り込まれていないため、保存整備事業を進めるうえで、改めて基本計画の中に位置づける必要があり、基本計画の一部を修正するため保存整備検討委員会を開催し審議した。 委員：史跡整備・考古学等の専門家及び地元住民代表等			
	③館城跡保存整備事業 ・植生調査 調査期間：令和４年４月１日～令和５年３月３１日 内 容：保存整備検討委員に依頼し現地調査等を実施した。 ・水文調査 委託期間：令和４年４月８日～令和５年３月３１日 内 容：基本計画修正のため史跡に流入する水の調査を実施した。			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	国民共有財産の保護と活用を図る本事業は、行政が実施すべきである。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	史跡保存整備計画に係る基本計画の修正に伴い、検討委員会で審議をおこない、必要な調査について実施した。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	基本計画は、専門家の意見を反映させることが必要条件であり、そのための経費であることからコスト削減の余地なし
総合評価	A	史跡整備を進めるため、検討委員会の審議が必要なため、今後も継続すべきである。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和４年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	文化財保護事業	中期計画上の位置づけ		郷土資料館の整備と活用
１０款５項２目	文化財保護費	事業費	R ２実績	５８千円
			R ３実績	７８千円
			R ４実績	７９千円
事業の目的 （求める成果）	厚沢部町の文化財の保存及び活用のために必要な措置を講ずる			
事業対象と手段 （誰に何を）	①消耗品費 月刊文化財等購入 ②負担金 北海道文化財保護協会負担金 全国史跡整備市町村協議会負担金 北海道文化財保存整備連絡協議会負担金			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 （行政が実施すべきか・手段は？）	A	埋蔵文化財保護に係る全道や全国規模の組織に加盟し、情報共有や自治体間で連携するために行政が実施すべきである。
成 果 （意図した成果があがったか）	A	文化財保護行政推進のための情報交流や情報収集を実施し、十分な成果があった。
効率性 （コスト削減の余地があるか）	A	各種団体加盟負担金が主であり、コスト削減の余地なし。
総合評価	A	国に対し埋蔵文化財保護や活用のための予算要求を、市町村間で連携し行えるため、今後も各種団体に加盟し、連携、協力を継続すべきである。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	郷土資料館活用事業	中期計画上の位置づけ		郷土資料館の整備と活用
1 0 款 5 項 2 目	文化財保護費	事業費	R 2 実績	2 4 千円
			R 3 実績	3 9 千円
			R 4 実績	4 9 千円
事業の目的 (求める成果)	厚沢部町郷土資料館を活用し、厚沢部町開拓の歴史、民俗、産業に関する資料を保管、調査、展示する			
事業対象と手段 (誰に何を)	①郷土資料館講座 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			
	②郷土資料館企画展示 町内各小中学校校歌編集事業 内容：廃校となった小中学校の校歌を郷土資料館で視聴			
	③道南ブロック博物館施設等連絡協議会 ・第1回役員会 期日：令和4年4月27日（水） 場所：厚沢部町 内容：総会へ向けての協議 ・第2回役員会 期日：令和4年9月21日（水） 場所：江差町 内容：会議開催等の報告 ・第3回役員会 期日：令和4年12月21日（水） 場所：江差町 ・総会及び研修会 期日：令和4年6月24日（金） 場所：厚沢部町 内容：令和3年度事業報告及び決算報告 令和4年度事業計画案及び予算（案） 役員改選 総会後、研修会を開催 研修会：テーマ「集客できるチラシ・ポスターと展示パネルのデザイン」			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	教育委員会が所管している郷土資料館を活用しての事業のため行政が実施することで妥当である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	小学校の社会科見学や近隣町の老人クラブなどが来館し、町の歴史等について学ぶ場として活用されている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	維持費のみの支出でコスト削減の余地なし。
総合評価	A	郷土資料館の活用の推進のため、郷土資料館講座や企画展示などの事業の継続が必要である。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和４年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	鹿子舞交流協議会運営費助成等事業	中期計画上の位置づけ		郷土芸能鹿子舞の活用
１０款５項２目	文化財保護費	事業費	R ２実績	２００千円
			R ３実績	１０８千円
			R ４実績	１９３千円
事業の目的 （求める成果）	郷土芸能である「鹿子舞」の保存伝承と町民の文化財への関心を高める鹿子舞交流協議会の運営を支援する。			
事業対象と手段 （誰に何を）	鹿子舞交流協議会運営費助成 期日：４月～３月 内容：厚沢部町鹿子舞交流協議会運営事業費を助成する。			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 （行政が実施すべきか・手段は？）	A	郷土芸能の保存伝承に尽力している当該協議会の運営費の助成について、文化財保護の観点から実施すべきである。
成 果 （意図した成果があがったか）	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新春町内会鹿子舞交流会は中止となったが、構成団体は各々活動を行い鹿子舞の保存活用に努めた。
効率性 （コスト削減の余地があるか）	A	用具修理等や練習経費、普及啓発活動に対する助成であり、郷土芸術の伝統保存の効果に対し効率性は高い。
総合評価	A	今後も郷土芸能の保存と伝承のため、協議会が活発な活動が出来るように継続すべきである。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(8)図書館活動

主管係	社会教育係	記入者		大 山 か の こ
事務事業名	図書館管理事業	中期計画上の位置づけ		図書館の魅力向上、豊かな学習環境の提供
1 0 款 5 項 3 目	図書館・郷土資料館管理費	事業費	R 2 実績	7 , 2 8 7 千円
			R 3 実績	7 , 2 6 2 千円
			R 4 実績	8 , 3 0 4 千円
事業の目的 (求める成果)	町民の全世代が利用しやすく気軽に利用できる図書館、憩いの場としての図書館とするため、図書館の運営に対し必要な管理を行う。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①報償費 図書館代替事務員 ②旅費 北海道図書館振興協議会総会等旅費 ③需用費 ・消耗品費 → 新聞購読料、雑誌等購入費、その他管理用消耗品 ・燃 料 費 → A重油、灯油、プロパンガス ・光熱水費 → 電気料、水道料 ・修繕料 → 小破修繕、ボイラー軟水装置取替、ヒート内水中ポンプ取替、教育委員会事務室入口扉修繕、 ④役務費 ・通信運搬費 → 電話料、インターネット利用料等 ・手数料 → 白布クリーニング等 ・火災保険料 ⑤委託料 床ワックス掛、消防用設備点検、ボイラー保守点検、自家用電気保安業務 自動制御機器保守点検、自動ドア保守点検、外調機保守点検 郷土資料館映像装置機器点検、重油地下タンク等検査、前庭樹木及び芝生管理 ⑥使用料及び賃借料 テレビ受信料、プリンタ借上料 ⑦備品購入費 図書・視聴覚資料等購入費、コンボート、バックアップ、インクジェットプリンタ ⑧負担金 北海道図書館振興協議会負担金			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	利用者へのサービス向上、当町児童生徒の読書環境の向上のために、今後も必要なサービスを提供すべき。
成果 (意図した成果があがったか)	A	図書館利用者のニーズに応えるためにリクエストカードの設置や道立図書館等他図書館との相互貸借の活用など、利用者の利便性が向上する取組を実施している。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	施設の老朽化により維持管理経費が高くなっているが、必要経費であるため止むを得ない。
総合評価	A	学年別おすすめ本リストや町図書館新刊一覧の配布や団体貸出等、図書館内だけでなく学校に対しても児童、生徒の読書環境の向上に努めている。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	読書啓発事業（読み聞かせ会開催・読書感想文集発行）	中期計画上の位置づけ		読書啓発事業の推進・町内読み聞かせサークルとの連携
1 0 款 5 項 3 目	図書館・郷土資料館管理費	事業費	R 2 実績	2 0 3 千円
			R 3 実績	2 5 9 千円
			R 4 実績	2 6 1 千円
事業の目的 (求める成果)	町民の読書への関心を深めるため、読み聞かせサークル団体との連携を図り、図書館等で楽しみながらお話にふれる機会を提供する。 町内児童生徒の文芸活動を振興し、情操の涵養と想像力豊かな少年少女の育成を図る。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①読み聞かせ会開催 ・図書館まつり 期 日：令和5年1月13日（金） 場所：図書館 講師：図書係 参加者：22名 内 容：ペープサート、紙芝居、大型絵本読み聞かせ、図書クイズ ・図書館クリスマス会 →新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 中止 ②厚沢部町児童生徒読書感想文集第42号発行（対象：小学校3年生～中学生） 期間：【募集】令和4年12月1日～令和5年1月23日 【印刷】令和5年2月3日～令和5年3月10日 ③『子どもに読んでほしい・友達に読んでほしいこの一冊 50選』の実施 学齢児童生徒の読書活動の啓発と図書館利用促進に向けた取り組みとして実施 ④ビブリオバトルの推進 厚沢部中学校で実施			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	読み聞かせ会は読み聞かせサークルの協力により運営している。今後も連携し協働による開催を継続すべき。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	クリスマス会の開催は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、図書館まつりは図書係が実施。読書感想文集による読書活動啓発や図書館利用の促進により読書習慣の定着が図られた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	読み聞かせサークル会員・読み聞かせ団体との日程調整が合わず、協力を得られなかったが図書係で実施したため効率性は高い。感想文集発行は編集員報償費と印刷製本費のみであるため、コスト削減の余地なし。
総合評価	A	読み聞かせ会は幼児や小学生が集まり、本に触れる機会を提供するだけでなく、地域の子どもたちの交流の場ともなる。読書感想文についても、小中学生への読書活動の啓発に効果があり感想文を書くことにより本への読解力がより深まることが期待されるが、感想文の指導に労力を要するため事業内容の検討が必要。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者	大 山 かのこ
事務事業名	移動図書館バス運行事業	中期計画上の位置づけ	各学校や関係機関との連携
10款5項3目	図書館・郷土資料館管理費	事業費	R 2 実績 207千円 R 3 実績 418千円 R 4 実績 185千円
事業の目的 (求める成果)	町民に対する読書を啓発するため、移動図書館バスを運行し、読書機会を提供する。		
事業対象と手段 (誰に何を)	①移動図書館バス「あすなろ号」の運行 運行日：原則第2週・第4週の木・金曜日(年34回運行) 場所：鶉小学校、館小学校を基本に町内4ステーションを運行 ②移動図書館バス運行経費 移動図書館バス運転手報酬 ※会計年度任用職員のため、総務費で計上。 (上記R4実績に含まず。(実績257千円)) 消耗品費、燃料費、小破修繕料、12ヶ月点検、タイヤ交換手数料、 自動車損害賠償責任保険料、自動車共済保険料、自動車重量税		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	町内全域に図書の貸し出しを推進出来るため、必要不可欠であり今後も実施すべきである。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、運行回数の減少や利用の減少となったが、図書の貸出機会の提供ができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	移動図書館バスの維持管理経費等必要経費の支出でコスト削減の余地なし。
総合評価	A	下地区以外の児童・生徒が自主的に町図書館に訪れるのは困難なため、町内全域に対する図書貸し出しサービスとして今後も継続していく。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	ブックスタート・ブックスタート フォローアップ事業	中期計画上の位置づけ		読書啓発活動の推進・町 内読み聞かせサークルと の連携
1 0 款 5 項 3 目	図書館・郷土資料館管理費	事業費	R 2 実績	1 4 千円
			R 3 実績	5 千円
			R 4 実績	1 6 千円
事業の目的 (求める成果)	「絵本」をとおして、子どもと保護者がいろいろな本と出会う基盤づくりを図るとともに、家庭教育力の向上を資する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①ブックスタート事業			
	場所：保健福祉センター			
	内容：9～10ヶ月の幼児健診時に、読み聞かせやブックスタートパック（絵本、イラスト アドバイス集等）を手渡しし、子どもと保護者の家庭教育力の向上を推進する。			
	【第1回】令和4年 7月15日（金） 3名			
	【第2回】令和4年 9月28日（水） 3名			
事業対象と手段 (誰に何を)	【第3回】令和5年 1月13日（金） 1名			
	【第4回】令和5年 3月15日（水） 1名			
	②ブックスタートフォローアップ事業			
	会場：保健福祉センター			
	内容：ブックスタート事業後のフォローアップとして2歳児相談時に、対象年齢に応じた 絵本の紹介（ブックトーク）や読み聞かせを行う。			
事業対象と手段 (誰に何を)	【第1回】令和4年 7月15日（金） 2名 ボランティア2名			
	【第2回】令和5年 3月15日（水） 7名 ボランティア1名			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	地域住民ボランティアや保健師、図書館職員等多数の関係者との連携が必要であり、今後も教委が中心となり推進すべき。
成果 (意図した成果があがったか)	A	絵本の読み方などにより乳幼児の関心を引き絵本に対する興味を持たせている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	地域住民ボランティアと協働で事業を実施
総合評価	A	関係者の声を聞きながらボランティアの理解の下、協働で事業を継続する。ボランティアが減少しているため、担い手づくりの取り組みを検討する必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者	石 井 淳 平
事務事業名	子ども読書活動推進計画推進事業 町図書館・学校図書館連携事業	中期計画上の位置づけ	各学校や関係機関との 連携
10款5項3目	図書館・郷土資料館管理費	事業費	R2実績 39千円
			R3実績 7千円
			R4実績 17千円
事業の目的 (求める成果)	「全ての子どもたちが、あらゆる機会と場所において自主的に読書活動を行えるよう積極的に環境整備が推進されなければならない」という子どもの読書活動の推進に関する法律の基本理念に則り、当町の子どもたちも自主的に読書活動を行うよう、学校図書館の充実や課題解決に向け連携を図るとともに、中期的な視点で環境整備が図れるよう、推進計画の現状課題や、内容についての協議を行う。		
事業対象と手段 (誰に何を)	①厚沢部町子ども読書活動推進計画事業 期間：平成30年度～令和4年度 内容：児童生徒・学校図書館の読書に関する現状把握、関係者との計画策定に向けた協議 第3次厚沢部町子ども読書活動推進計画を策定 備考：令和5年度から5か年計画とし、第8次厚沢部町教育推進中期計画（令和5年度から令和9年度）と同期間とする。 ②町図書館・学校図書館連携事業 学校への団体貸出等を行い、学校図書館の充実を図るため、読書活動推進事務員を置く。 読書活動推進事務員報酬及び期末手当 ※会計年度任用職員のため、総務費で計上。 （上記R4実績に含まず。（実績1,112千円））		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	子ども読書推進計画にかかる審議、意見交換の場は必要不可欠であり実施すべきである。
成果 (意図した成果があがったか)	A	学校図書担当職員の学校での現状報告や意見、相談は学校図書館との連携にも繋がり、子ども読書活動推進に寄与する。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	読書活動推進の職員の人件費が主であり、必要最低限の経費で実施している。
総合評価	A	図書館のみでは推進できない部分を、関係団体同一認識のもと協働で推進することが求められる。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(9)ふるさと創生事業

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	伝統技能伝承講座開設事業	中期計画上の位置づけ		多様な体験活動や交流 学習の推進と充実
1 0 款 5 項 4 目	ふるさと創生事業費	事業費	R 2 実績	0 千円
			R 3 実績	0 千円
			R 4 実績	0 千円
事業の目的 (求める成果)	消えゆく恐れのある伝統的な食材や料理法、質の良い食品を守る。 日本の昔ながらの遊びを小学生に伝承し、古来の文化を体感するとともに異世代間の交流。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①つぼっこ汁づくり教室 内容：一般町民や親子に対し伝統的料理つぼっこ汁づくりの作り方を教える。 ②昔の遊び・食べ物教室 内容：1年生は昔の遊び教室を行い、2年生には食べ物(かだっこ餅)教室を行う。 複式校の計画によっては食べ物(かだっこ餅)教室に1年生が入る場合もある。 ※①②について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 中止			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	児童が、用意した「遊び」に積極的興味を示し、参加をする姿勢も良く、ボランティアによる児童との世代間交流は意義があり、ボランティアへの依頼、調整や一般町民を対象としたつぼっこ汁教室は行政が実施することで妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	—	—
効率性 (コスト削減の余地があるか)	—	—
総合評価	A	普段体験出来ない、昔の遊びや食べ物は、現代の子ども達に対し興味を持たせる貴重な体験であり、伝統的料理の伝承についても継続していくべきである。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和４年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	創造の翼中学生研修派遣事業	中期計画上の位置づけ		多様な体験活動や交流 学習の推進と充実
１０款５項４目	ふるさと創生事業費	事業費	R 2 実績	１，５１４千円
			R 3 実績	１，８７６千円
			R 4 実績	３，４４３千円
事業の目的 (求める成果)	平和の尊さと命の大切さを学ぶとともに独特の文化や歴史、自然に触れ、これからの日本と厚沢部町に有益な見識を培い人材を育成する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	厚沢部中学校の修学旅行として実施。 時期：令和４年４月２４日（日）から２７日（水）まで 場所：九州方面（鹿児島県、熊本県、長崎県、福岡県） 内容：歴史と現状、自然、文化、産業、生活の見聞、平和教育 生徒２７名、引率５名			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	中学生による研修は、歴史、文化、生活、産業、自然などを見聞・吸収し、有意義なものであり、全校生徒を対象としているため教育委員会が行うことが妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	道外の文化に触れ、多様な体験活動が実施された。この体験で得た知識や考え方を基に実生活の様々な課題に取り組むことが期待される。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	研修旅費等の支出でコスト削減の余地なし。
総合評価	A	当該事業は中学生にとっては貴重な体験が出来、有意義なものであり、継続していくべきである。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	国際交流（在日留学生交流）事業	中期計画上の位置づけ		多様な体験活動や交流 学習の推進と充実
1 0 款 5 項 4 目	ふるさと創生事業費	事業費	R 2 実績	0 千円
			R 3 実績	0 千円
			R 4 実績	0 千円
事業の目的 （求める成果）	在日留学生との交流を通して、相互理解を深め国際的視野を広げる。			
事業対象と手段 （誰に何を）	①ホームステイ滞在 内容：ホームステイ先の家族との交流、作業の体験、地域探訪・観光 ②町内小中学校、保育所や各種施設への訪問交流 内容：幼児・児童・生徒との交流、質問に応える、歌の交流 ③ホームステイ・ホストファミリー体験交流会・お別れ会 内容：ホストファミリーの体験発表、留学生の体験発表、懇親会 ※①②③について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	教育委員会が行うことが妥当であるが、受入家庭の応募が少なく、苦慮している。
成 果 (意図した成果があがったか)	—	—
効率性 (コスト削減の余地があるか)	—	—
総合評価	A	異国の文化に触れることができ、国際的視野を広げるためにより良い実施方法を検討し実施すべき。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		富 塚 龍
事務事業名	厚沢部町文化講演会開催事業	中期計画上の位置づけ		優れた芸術文化活動の提供
1 0 款 5 項 4 目	ふるさと創生事業費	事業費	R 2 実績	0 千円
			R 3 実績	1 4 千円
			R 4 実績	6 1 6 千円
事業の目的 (求める成果)	地域づくりや仲間づくり、健康、子育て、芸術文化、スポーツなどの多様な分野の講演会を複数回開催することで、心豊かな人物の育成を図るとともに、地域の教育力の向上を図る。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①第1回講演会 期 日：令和4年7月2日（土） 会 場：町民交流センター 講 師：三代目 林 家 染 二 氏 演 題：「笑う門には福来たる～思いっきり笑うと元気になります～」 参加者：58名 ※幸齢者学級と同時開催 対象者：一般町民、町PTA連合会、幸齢者学級 ※幸齢者学級と同時開催			
	②第2回講演会 期 日：令和4年10月9日（日） 会 場：町民交流センター 講 師：東洋大学教授 藤 本 典 裕 氏 演 題：たかがアニメの教育学～サザエさん、ちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃん～ 参加者：13名 対象者：一般町民			
	③第3回講演会 期 日：令和5年2月21日（火） 会 場：町民交流センター 講 師：第57次南極地域観測隊 渡 貫 淳 子 氏 演 題：「南極ではたらく～かあちゃん、調理隊員になる～」 参加者：65名 対象者：一般町民、幸齢者学級 ※幸齢者学級と同時開催			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	様々な分野で活躍されている方を講師として招くことができ、今後とも町民にこのような機会を提供するためには、行政が実施することで妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	鑑賞機会が少ない落語の講演やアニメの家族モデルを例にした分かりやすい教育学、南極での実体験の講演など様々な分野の講演を開催することにより貴重な学びと楽しさを提供することができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	主に講師依頼経費でありコスト削減の余地はない。
総合評価	A	町民の視野と教養を広めるためにも有効であり、今後も継続すべきである。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	幸齢者学級との連携をさらに進めてほしい。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

(11)社会体育

主 管 係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ	
事務事業名	学校体育館夜間開放事業	中期計画上の位置づけ		スポーツ施設の適切な管理運営	
1 0 款 6 項 1 目	保健体育総務費	事業費	R 2 実績	5 5 千円	
			R 3 実績	3 5 千円	
			R 4 実績	5 4 千円	
事業の目的 (求める成果)	町内各地区の学校体育館を夜間開放し、地域住民のスポーツ振興を図る。				
事業対象と手段 (誰に何を)	町内小学校体育館等を開放し各団体の活動を推進する ・ 厚沢部小学校 厚沢部 A C ・ バスケットボールクラブ 延べ 105 回 1,636 名 ・ 鶉小学校 申請団体無し ・ 館小学校 館体育愛好会				

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	鶉地区、館地区については総合体育館から離れており、各地域で活動できる場の確保が必要である。下地区についても総合体育館の定期利用が混雑しており、練習の場の確保として妥当である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	下地区から離れている地区においてもスポーツ活動が行われ、地域内の交流も図られている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	監視員の報償費のみであり、コスト削減の余地なし。
総合評価	A	町内スポーツ団体の活動の場を提供することで、スポーツ振興が図れている。下地区、鶉地区、館地区の地域間の差がないように今後も継続していく必要がある。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主 管 係	社会教育係	記入者	大 山 かのこ
事務事業名	生涯スポーツ振興事業	中期計画上の位置づけ	町民皆スポーツの奨励 推進
10款6項1目	保健体育総務費	事業費	R 2実績 102千円 R 3実績 343千円 R 4実績 232千円
事業の目的 (求める成果)	各種スポーツ講座・大会等を開設し、青少年及び一般町民のスポーツ振興、技術の向上を図る。		
事業対象と手段 (誰に何を)	①心肺蘇生法、AED実技講習会 期日：令和4年6月3日（金） 場所：図書館視聴覚室 参加対象：体育施設関係者、体育団体関係者、学校関係者 参加者：11名 内容：AED設置施設関係者を対象とした心肺蘇生法、AED実技講習会 ②小学生スイミングスクール 期日：令和4年8月4日（木）～8月9日（火）土日を除く4日間（小学校夏休み期間） 場所：厚沢部地区町民プール 対象：町内小学校1年生～4年生 参加者：34名 内容：小学校1年生～4年生を対象とした水泳教室 ③第39回厚沢部町小中学生水泳競技大会 期日：令和3年8月10日（水） 場所：厚沢部地区町民プール 参加対象：町内小中学生 内容：町内小中学生水泳競技大会 参加者：10名 ④ノルディックウォーキング教室 期日：令和5年2月19日（日） 場所：総合体育館ほか 参加対象：町内一般 参加者：10名 ※スポーツ協会50周年記念事業スポーツ交流会と同時開催 ⑤小学生スキー教室 期 日：令和5年1月23日～31日 場 所：太鼓山スキー場 対象者：小学校1年生～6年生 参加者：37名 内容：小学生を対象としたスキー教室 ※2月3日までの予定だったがリフトの故障により1月31日で事業終了とした		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	学習、大会等の機会を提供するために行政が実施すべきである
成 果 (意図した成果があがったか)	A	スキー教室について、事業期間中にリフトが故障したため、途中で事業終了となった。(39名→40名) 他の事業は予定通り実施し、運動する機会や技術向上の目標となる大会を開催しスポーツの推進が図られた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	各事業ともに講師の報償費及び消耗品費等必要経費の支出であり、コスト削減の余地なし。
総合評価	A	実施した各事業の参加者に学習や競技機会の場を提供することができた。スポーツ向上のみではなく、健康増進という観点からスポーツ振興の重要性が増している。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

事業名	自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
AED実技講習会	妥当性	A	講師を厚沢部消防署救急係に依頼したため連絡調整等スムーズに行うことができた。
	成果	A	プール管理人等 AED 設置施設関係者には万が一の事故の対処のために必要であり、スポーツを指導する立場の団体関係者にとっても必要な知識、実技を提供できた。また、今年度は学校関係者の参加もあり、積極的な質疑応答や、実際の現場を想定した救命措置の実践を行うなど有意義であった。
	効率性	A	講師が行政職員のため報償費の支出はなく、資料も講師側で用意したので事務量が少なく、特段経費はかからないため効率性は高い。
	総合評価	A	AEDの使用方法については1度だけでなく何度も講習を受けて身につけるべきであるため、毎年度当該事業については開催すべきである。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年通りの開催とはならなかったが、衛生・安全面に配慮しながら実施することができた。
小学生スイミングスクール	妥当性	A	講師を当町スイミングクラブ指導員などの社会教育関係者と教職員に依頼しているため、連絡調整がスムーズに行える。また、会場となるプールも行政が管理していた。
	成果	A	対象が小学生1～4年生のため、低学年の児童を中心に水泳初心者や水泳が苦手な児童に対して水泳を習う機会を提供できた。概ねの参加児童が自身の水泳技術の向上を肌で感じ、楽しむことができた。(嘔吐により4日間の予定が3日間に変更となる)
	効率性	A	保険料は参加料で賄い、送迎は公用車を使用。町費としては講師の報償費のみであることから必要最小限の支出となったため効率적이다。
	総合評価	A	参加者は前年度とほぼ同数。(R3:36名→R4:34名)水泳授業の経験が少ない低学年の児童やスイミングクラブに入っていない児童に対して、水泳を習う機会を提供できた。講師についても、スイミングクラブ指導員、町学校職員など、5名(3日間で延べ12名)に協力頂き、それぞれのレベルに応じた指導ができ、十分な効果があった。
町内水泳大会	妥当性	A	参加者とりまとめや、競技役員協力等、学校側と連携し行政が実施すべきである。
	成果	A	参加者数は少なかったものの、今年度は館小学校からの参加もあり、選手の日頃の努力を発揮する機会を提供できた。
	効率性	A	新記録樹立者のメダル等、最低限の経費で運営できている。
	総合評価	A	小中学生への競技機会の提供として必要な事業である。スイミングスクール受講者に参加を促し、スイミングスクール講師や各学校体育教諭に参加者の推薦を募るなど参加人数の増加に努める。
ノルディックウォーキング	妥当性	A	健康増進の手段であるノルディックウォーキングは年齢問わず楽しめるため、一般町民向けの社会体育事業として妥当である。
	成果	A	スポーツ協会50周年記念事業のスポーツ交流会との同時開催により実施。ノルディックウォーキングの運動効果を実感できた。
	効率性	A	講師料、ポール借上料などすべて含めた委託料であり、十分に効率적이다。
	総合評価	A	参加者は10名となった。高齢者の健康増進にも寄与する事業内容であり、有意義な内容であることから、より多くの参加者を募るため周知方法等の検討をする。
小学生スキー教室	妥当性	A	参加対象が町内小学生のため、教育委員会が主催することは妥当である。
	成果	A	受講生は昨年とほぼ同数(39名→37名)リフトの故障により途中で事業中止となったが各日程5日間のうち3日間の開催ができ、一定の成果を得た。
	効率性	A	保険料等は自己負担にしており、支出は報償費のみとなっているため効率性は高い。
	総合評価	A	スキー教室を待ち望んだ受講生、保護者のニーズが高い。昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の基本的な対策等を徹底し実施できた。

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主 管 係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	厚沢部町スポーツ少年団本部助成事業	中期計画上の位置づけ		町民皆スポーツの奨励 推進
1 0 款 6 項 1 目	保健体育総務費	事業費	R 2 実績	4 4 8 千円
			R 3 実績	4 6 6 千円
			R 4 実績	5 4 4 千円
事業の目的 (求める成果)	町スポーツ少年団の大会参加料等を助成し、青少年のスポーツ振興を図る。			
事業対象と手段 (誰に何を)	①全国・全道大会参加経費助成 全国大会 空手道（1名） ②各種大会参加経費（参加料）助成 実績：柔道、野球、陸上 ③主催大会運営費助成 ・第22回町内羽球大会 →団員数が少ないため 中止 期日：令和5年2月 会場：厚沢部町総合体育館 ・第58回町内剣道大会 →団員数が少ないため 中止 期日：令和5年1月上旬 会場：厚沢部町総合体育館 ・第44回町内柔道大会 →団員数が少ないため 中止 期日：令和5年1月上旬 会場：厚沢部町総合体育館 ・スポーツ少年団交流会（上記3大会の代替事業として交流会を企画・実施） 期日：令和5年3月27日（月）内容：リズムトレーニング及びバルシューレ体験 ※ドイツ生まれのボールを使ったプログラム 講師 やれるきクラブ 木村 侑 氏 ④各スポーツ少年団活動費助成 ・対象：少年団（柔道、剣道、野球、羽球、HipHopダンス、空手、陸上、水泳） ⑤日本スポーツ少年団登録料助成 ・対象：指導員、スタッフ、役員、団員（柔道、剣道、野球、羽球、空手、陸上） ＜本部総会開催＞ 期日：令和4年6月29日 場所：図書館視聴覚室 ＜管内総会開催＞ 期日：令和4年6月 書面協議により開催			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	参加経費助成について、各種大会が町外で行われることが多く経費がかかるため妥当である。主催大会運営については、スポーツ少年団本部事務局を教育委員会及び各団体父母会が運営している。運営費助成については、妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため大会が中止となる競技があったが、その中で前向きに練習に取り組む姿勢はスポーツの推進において一定の効果があつた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	活動費助成について、現在1団体50,000円を基本としているが、コロナ禍で活動が通常通りできない団体には実費分を助成しておりコスト削減の余地はない。
総合評価	A	助成は各少年団の育成に必要である。本部事務局については行政ではなく、民間の任意団体として自主的に担っていく必要があり、今後の検討課題である。 各種大会運営費助成について、団員の減少により大会の開催が難しく、スポーツ少年団全体での事業が効率良く効果的である。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主 管 係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	厚沢部町スポーツ協会助成事業	中期計画上の位置づけ		町民皆スポーツの奨励 推進
1 0 款 6 項 1 目	保健体育総務費	事業費	R 2 実績	1 1 2 千円
			R 3 実績	7 6 千円
			R 4 実績	6 1 1 千円
事業の目的 (求める成果)	町体育協会の大会運営費等を助成し、町民のスポーツ振興を図る。			
事業対象と手段 (誰に何を)	① スポーツ協会主催事業助成事業 町内歩け歩け運動 場所：館町 期日：令和4年10月22日（土） 参加者 22名			
	② スポーツ協会主催大会助成事業（3種目） 実 績：パークゴルフ、バドミントン、ソフトバレー			
	③ 檜山管内スポーツフェスタ派遣事業：4種目 (1) 軟式野球 会場：せたな町 期日：令和4年10月8日（土）9日（日）参加人数不足により参加無し (2) パークゴルフ 会場：厚沢部町 期日：令和4年 9月4日（日） 新型コロナの影響により 中止 (3) バドミントン 新型コロナの影響により 中止 (4) ソフトバレー 新型コロナの影響により 中止			
	④ スポーツ協会50周年記念事業 (1) スポーツ交流会（記念事業） ア パークゴルフ大会 会場：パークゴルフ場 期日：令和4年10月1日（土） 参加者：46名 イ ノルデックウォーキング体験&雪遊び体験 会場：総合体育館・テニスコート 期日：令和5年2月19（日） 参加者：49人 ※雪遊び体験は雪上リレー、宝探し、そり遊びを実施 (2) スポーツ促進ポイント事業 健康意識の増進、健康・体力づくりの動機付け及び 定着化と施設の利用促進を目的とする。 内容：前期・後期に分け、体育施設の利用に応じてポイントを付与し記念品を 贈呈する。参加者：212名（前期112名、後期100名） (3) 記念誌作成 50周年の節目に各スポーツ団体の歴史や大会記録をまとめる。			
	⑤ 総会等 (1) 厚沢部町スポーツ協会 ア 役員会 第1回 期日：令和4年4月25日（月） 第2回 期日：令和4年6月23日（木） イ 総会 第1回 期日：令和4年6月30日（木） (2) 檜山管内スポーツ協会連絡協議会 総会 書面協議により開催			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	一般町民のスポーツ活動の振興がなされており、妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	スポーツフェスタ派遣事業については、新型コロナの影響により中止となり、スポーツ協会主催大会についても、同様の理由により中止となった種目があるが概ね計画どおり実施できた。 また町の補助金の交付を受け50周年記念事業を実施し、体育施設の促進や健康・体力づくりの動機付け図られた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	コスト削減の余地なし。
総合評価	A	一般町民のスポーツ活動の振興に必要である。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和４年度事務事業評価シート（社会教育係）

主 管 係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	厚沢部町振興全道スポーツ大会 (町バレーボール連盟主催大会)	中期計画上の位置づけ		町民皆スポーツの奨励 推進
１０款６項１目	保健体育総務費	事業費	R 2 実績	０千円
			R 3 実績	０千円
			R 4 実績	０千円
事業の目的 (求める成果)	厚沢部町の振興に寄与する全道スポーツ大会運営費を助成し青少年のスポーツ振興を図る。			
事業対象と手段 (誰に何を)	① 第２５回全道中学生選抜バレーボールフェスティバル ② 第３７回東北・北海道小学生選抜バレーボール厚沢部大会 ※上記の①、②について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	参加各チームに試合結果報告等担ってもらい、厚沢部町振興事業として最小限の従事者で実施。
成 果 (意図した成果があがったか)	—	—
効率性 (コスト削減の余地があるか)	—	—
総合評価	A	バレーボール連盟との協議により各会場係の業務を自主的に団体が行い自主的な運営がなされている。今後も同様な運営を目指していく。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主管係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	スポーツ推進委員活動費	中期計画上の位置づけ		社会教育諸団体の主体的・自立的力量の向上と研修機会の充実
1 0 款 6 項 1 目	保健体育総務費	事業費	R 2 実績	1 2 4 千円
			R 3 実績	1 5 1 千円
			R 4 実績	1 4 3 千円
事業の目的 (求める成果)	生涯スポーツに関する諸計画の立案及び調査研究、委員としての活動と生涯スポーツ指導の効果的推進に関する諸問題について審議する。			
事業対象と手段 (誰に何を)	① 厚沢部町スポーツ推進委員会 （１）第１回厚沢部町スポーツ推進委員会 期 日：令和４年 ６月２７日（月） 場 所：図書館視聴覚室 （２）第２回厚沢部町スポーツ推進委員会 期 日：令和４年１２月 ７日（水） 場 所：図書館視聴覚室 ② 檜山管内スポーツ推進委員協議会 期 日：令和４年６月 書面協議により開催			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	事務局が行政であるためこのままの方向性で妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	当町の社会体育事業の振興に大きく寄与している。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	報償費、費用弁償のみの支出となっていることから、効率性は高い。
総合評価	A	今後も同様に社会体育事業の計画等に提言していただき、当町のスポーツ振興を目指していく。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主 管 係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	総合体育館管理事業 (テニスコート管理含む)	中期計画上の位置づけ		スポーツ施設の適切な 管理運営
1 0 款 6 項 2 目	体育施設費	事業費	R 2 実績	8 , 4 3 8 千円
			R 3 実績	9 , 5 6 6 千円
			R 4 実績	1 0 , 4 2 0 千円
事業の目的 (求める成果)	・生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに努める。 ・誰もが仲間と共に文化・スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていく。			
事業対象と手段 (誰に何を)	① 報償費 ・総合体育館代替職員報償費 ※総合体育館管理人・清掃員は、会計年度任用職員のため、報酬、期末手当、雇用保険、社会保険料、費用弁償については総務費で計上。 (上記 R 4 実績に含まず。(実績 6 , 4 9 5 千円)) ② 需用費 ・消耗品費 → トイレトペーパー、蛍光灯、清掃用具等 ・燃 料 費 → A重油、灯油、プロパンガス、その他 ・光熱水費 → 電気料、上下水道料 ・修 繕 料 → 小破修繕 グラフィックイコライザー取替修繕 ピット内水中ポンプ取替修繕 ③ 役務費 ・火災保険料 ・手 数 料 → モップクリーニング料、その他 ・通信運搬費 → 公衆電話料 ④ 委託料 ・床ワックス掛・消防用設備等点検・暖房設備保守点検・音響設備保守点検 ・照明制御装置保守点検・舞台吊物設備、電動暗幕装置保守点検・ゴミ収集 ⑤ 使用料及び賃借料 ・A E D 借上料			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	事務局が施設内にあることから行政が実施し、現状維持が望ましい。
成果 (意図した成果があがったか)	A	利用者数は昨年度(12,237人)に比べ14,766人と増加した。徐々にだが新型コロナウイルス感染症の影響は減少し、通常化になりつつある。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	コスト削減の余地なし。
総合評価	A	現状維持が望ましい。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主 管 係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	多目的交流広場管理事業	中期計画上の位置づけ		スポーツ施設の適切な管理運営
1 0 款 6 項 2 目	体育施設費	事業費	R 2 実績	2, 8 2 3 千円
			R 3 実績	5, 7 9 6 千円
			R 4 実績	3, 2 4 1 千円
事業の目的 (求める成果)	・生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに努める。 ・誰もが仲間と共に文化・スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていく。			
事業対象と手段 (誰に何を)	① 需用費 ・消耗品費 → スコア用ペン、ティーグラウンド用人工芝、予備カップ他 ・燃 料 費 → レギュラーガソリン（芝刈機用）、混合油 ・食 糧 費 → 飲料代（開設、閉鎖作業時） ・光熱水費 → 電気料、上下水道料 ・修 繕 料 → 小破修繕 ② 役務費 ・火災保険料 ③ 委託料 ・芝管理（目土、追肥、殺虫剤散布）・樹木管理・芝刈及び清掃等管理 ④ 使用料及び賃借料 ・券売機賃借料 ⑤ 備品購入費			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段?)	A	パークゴルフ場整備についてはパークゴルフ協会の協力のもと行政と住民協働しながら管理を行っている。
成果 (意図した成果があがったか)	A	昨年度はグリーン芝張替のため7月下旬まで開設を延期したため利用者は減少したが、今年度は例年とおりに開設し4,786人(R3:2,531人)と大幅に増加した。 また、開設・閉鎖作業について、パークゴルフ協会が協力しており、団体の自主性が図られている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	乗用芝刈機の更新により、草刈作業の効率化が図られ、通常の管理コストの削減につながる。
総合評価	A	高齢者の利用が多く、健康増進に寄与している。 良好な管理を継続し、更なる有効活用を図るため、老朽化した施設等の適切な更新に努める。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主 管 係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	町民プール管理事業	中期計画上の位置づけ		スポーツ施設の適切な管理運営
1 0 款 6 項 2 目	体育施設費	事業費	R 2 実績	4 , 0 4 0 千円
			R 3 実績	5 , 2 1 4 千円
			R 4 実績	8 , 9 4 0 千円
事業の目的 (求める成果)	・生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに努める。 ・誰もが仲間と共に文化・スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていく。			
事業対象と手段 (誰に何を)	① 報償費 総合体育館代替職員報償費 ※町民プール管理人・監視員の報酬は会計年度任用職員のため、総務費で計上。 (上記R 4 実績に含まず。(実績 1 , 1 1 1 千円)) ② 需用費 消耗品費(管理用消耗品)、燃料費(灯油)、印刷製本費(領収書印刷料)、光熱水費(電気料、上下水道料)、修繕料(小破修繕、電解次亜生成装置修繕、軒先修繕) ③ 役務費(火災保険料)、通信運搬費(公衆電話料) ④ 委託料 清掃、水質検査、遠赤外線暖房機保守点検、消防用設備等点検、自動ドア定期保守点検・循環浄化装置保守点検 ⑤ 使用料及び賃借料 A E D 借上料 ⑥ 工事請負費 外壁塗装工事 ⑦開設時間について管理人及び監視審の不足により通常時間から変更して実施 令和4年度 6～9月 火・金曜日：午後4時～午後8時(4時間) 水・木曜日：午後3時～午後7時(4時間) 土日祝日：午後1時～午後5時(4時間) 毎週月曜休館 7/28～8/21(夏季休業期間) 火・金曜日：午後4時～午後8時(4時間) 火・金曜日以外：午後1時～午後5時(4時間) 毎週月曜休館 ※通常時間 6・9月 午後1時～午後8時(7時間) 毎週月曜休館 7・8月 午前10時～午後8時(10時間) 定休日なし			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	学校の授業や社会教育事業で使用するため、行政が実施すべきである。
成果 (意図した成果があがったか)	A	昨年に引き続き人員不足による開設日数の減少と開設時間の短縮のため、利用者は2,776人と（昨年度2,766人）昨年とほぼ同数となった。開設日数や時間短縮を短縮したがスポーツ少年団の利用などスポーツ促進が図られ一定の成果があった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	コスト削減の余地なし。
総合評価	A	人員不足による開設時間の短縮に伴い、学校の授業は代替員や職員が対応し実施した。スイミング教室や小中学生水泳大会など社会体育事業の推進に有効利用され、一般利用者についても定期的な利用が見受けられることからスポーツ振興や健康増進に寄与している。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主 管 係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	バーベキューハウス管理事業	中期計画上の位置づけ		スポーツ施設の適切な管理運営
1 0 款 6 項 2 目	体育施設費	事業費	R 2 実績	4 千円
			R 3 実績	4 千円
			R 4 実績	1 5 千円
事業の目的 (求める成果)	・生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに努める。 ・誰もが仲間と共に文化・スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていく。			
事業対象と手段 (誰に何を)	① 需用費 ・消耗品費 ② 役務費 ・火災保険料			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段?)	A	現状維持が妥当である。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	町民の憩いの場、交流の場として有効活用されている。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	コスト削減の余地なし。
総合評価	A	現状維持のままだが望ましい。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主 管 係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	総合グラウンド管理事業	中期計画上の位置づけ		スポーツ施設の適切な管理運営
1 0 款 6 項 2 目	体育施設費	事業費	R 2 実績	2 , 8 5 9 千円
			R 3 実績	2 , 9 2 5 千円
			R 4 実績	2 , 5 5 9 千円
事業の目的 (求める成果)	・生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに努める。 ・誰もが仲間と共に文化・スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていく。			
事業対象と手段 (誰に何を)	① 需用費 ・消耗品費 → グラウンドソイル（土）、塩化カルシウム ・燃 料 費 → 軽油、レギュラーガソリン ・光熱水費 → 電気料、上下水道料 ・修 繕 料 → 小破修繕、量水器更新 ② 役務費 ・火災保険料 ・手 数 料 → 殺虫灯カバー取り付け、取り外し ③ 委託料 ・芝刈及び施設管理・芝生管理（殺虫剤・除草剤散布、追肥） ④ 使用料及び賃借料 グラウンド転圧作業用ローラー借上料、土地借上料			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段?)	A	グラウンド整備については野球連盟や少年団の協力により行政と協働した管理を行っている。
成果 (意図した成果があがったか)	A	野球連盟や少年団の練習の定期的な利用のほか、他町との練習試合や大会などで使用している。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	乗用芝刈機の更新により、草刈作業の効率化が図られ、通常の管理コストの削減につながる。
総合評価	A	青少年の利用が多く、健康増進に寄与している。 良好な管理を継続し、更なる有効活用を図るため、施設等の適切な更新に努める。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主 管 係	社会教育係	記入者		大 山 かのこ
事務事業名	太鼓山スキー場管理事業	中期計画上の位置づけ		スポーツ施設の適切な管理運営
1 0 款 6 項 2 目	体育施設費	事業費	R 2 実績	7 0 9 千円
			R 3 実績	3, 1 1 0 千円
			R 4 実績	1, 6 5 3 千円
事業の目的 (求める成果)	・生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに努める。 ・誰もが仲間と共に文化・スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていく。			
事業対象と手段 (誰に何を)	① 需用費 ・消耗品費 → 管理用消耗品 ・燃 料 費 → 灯油、レギュラーガソリン ・光熱水費 → 電気料、上下水道料 ・修 繕 料 → 小破修繕 ② 役務費 ・火災保険料 ・手 数 料 し尿汲み取り料 ③ 委託料 ・リフト保守点検・スキー場草刈及び防雪柵設置補修・排水トラフ周辺草刈・管理運営 ④ 使用料及び賃借料 土地借上料 ※1/21～2/28 まで開設予定だったがリフトの故障により 1/31 に閉鎖			

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は？)	A	施設を熟知している高齢者事業団と管理委託しており、グレンデの整備等についてはスキークラブの協力のもと行政と住民協働しながら管理を行っていることから現状維持が望ましい。
成果 (意図した成果があがったか)	A	今年度は積雪に恵まれ開設することができたが、リフトの故障により開設期間中に閉鎖となった (利用者延べ：183人)
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	コスト削減の余地なし。
総合評価	A	利用者からリフトの修繕の要望があり、リフトの新規入替や老朽化した施設の修繕の検討が必要。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評価委員意見
B	リフトをはじめとする施設修繕が必要

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

令和4年度事務事業評価シート（社会教育係）

主 管 係	社会教育係	記入者	大 山 かのこ
事務事業名	館地区及び鶉地区プール利用者バス送迎事業	中期計画上の位置づけ	スポーツ施設の適切な管理運営
10款6項2目	体育施設費	事業費	R2実績 370千円
			R3実績 308千円
			R4実績 431千円
事業の目的 (求める成果)	生涯学習社会の実現を促進するため、地域住民の自主的な生涯学習を推進するための学習環境と地域における生涯学習活動の拠点づくりに努める。 誰もが仲間と共に文化・スポーツを楽しめるよう環境・体制を整えていく。		
事業対象と手段 (誰に何を)	<委託料> ・バス送迎委託業務		

自己点検と評価解釈

自己評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	館、鶉地区町民プール閉鎖に伴い、両地区のプール利用者を厚沢部地区町民プールに送迎するため行政が実施すべきである。
成 果 (意図した成果があがったか)	A	館地区、鶉地区の町民に利用され、鶉地区の利用が少ないが一定の成果があった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	過去の利用状況を考慮し、利用者がいない日を少なくするよう運行日程を工夫しているが、利用者の事前把握が困難なことから、全運行日数14日間の内、利用者0人の日が4日間あった。今後も運行日程について検討する。
総合評価	A	次年度以降もより望ましい運行日程を検討する。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員の点検・評価項目

評価欄	評 価 委 員 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(1)健康・安全

主管係	総合給食センター係	記入者		石 村 和 子
事務事業名	厚沢部町総合給食センター運営事業	中期計画上の位置づけ		健康・安全教育の充実
1 0 款 6 項 3 目	学校給食費	事業費	R 2 実績	7 7, 8 2 3 千円
			R 3 実績	7 7, 7 7 9 千円
			R 4 実績	7 9, 2 1 5 千円
事業の目的 (求める成果)	・ 安全安心な学校給食の提供 ・ 食育指導・給食指導の充実を図る			
事業対象と手段 (誰に何を)	①平成29年8月から町単独の総合給食センターで調理した給食を各学校とこども園へ提供 ②完全給食（米飯給食）の実施 ③栄養教諭（厚沢部小学校所属）を活用し、各小中学校で食育指導・給食指導を実施 ④アレルギーを持つ児童生徒には7大アレルゲンを除去した代替食を提供			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	学校給食の安心・安全、また子育て支援の観点からも継続した実施が必要である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	米飯給食が完全実施され、児童・生徒に温かい給食を提供することが可能となった。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	センターの管理・運営・調理業務は業者委託しており、業務の効率化が図られている。
総合評価	A	道が配置する栄養教諭の管理・指導のもと運営がなされており、給食費徴収・食材購入等も公会計で処理することで透明性が保たれている。

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価 A：良好（現状のまま継続） B：普通（改善の上継続） C：不良（廃止又は大幅な見直し）

(2) その他(就学支援)

主管係	総合給食センター係	記入者		石 村 和 子
事務事業名	子育て支援事業（給食費助成）	中期計画上の位置づけ		教育費等の支援
1 0 款 6 項 3 目	学校給食費	事業費	R 2 実績	—
			R 3 実績	—
			R 4 実績	—
事業の目的 (求める成果)	・ 町民の子育てに係る経費の一部を助成することで、保護者の経済的負担の軽減を図る ・ 令和 2 年度から新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金により無償化を実施			
事業対象と手段 (誰に何を)	・ 厚沢部町に住所を有する保護者へ給食費の一部を助成する 小学生　：2分の1助成（給食費　3,800円　⇒　1,900円） 中学生　：2分の1助成（給食費　4,500円　⇒　2,250円）			

自己点検と評価解釈

自己点検と評価項目	評価	評価の解釈・改善や見直しの方法
妥当性 (行政が実施すべきか・手段は?)	A	子育て支援の一環として、平成20年度から町の単独事業として実施しているため、継続実施が必要である。
成果 (意図した成果があがったか)	A	給食費を全納した者に助成するため、給食費の滞納を防止することができた。
効率性 (コスト削減の余地があるか)	A	保護者の経済的負担の軽減になっており、町の政策予算であるため助成額の削減はしない。
総合評価	A	子育て支援の一環として行っている事業であり、保護者の経済的負担の軽減になっていることから、今後も継続実施する必要がある。

評価　　A：良好（現状のまま継続）　　B：普通（改善の上継続）　　C：不良（廃止又は大幅な見直し）

外部評価委員会評価

評価	評 価 委 員 会 意 見
A	現状のまま継続

評価　　A：良好（現状のまま継続）　　B：普通（改善の上継続）　　C：不良（廃止又は大幅な見直し）